



へこたれない大人に育てる

校長 益子 聡

子どもの頃、親や先生、近所の人から「褒められた経験」が多かった人は、大人になってから困難や逆境に陥っても〈へこたれない〉傾向にあることが、昨年 10 月に行われた独立行政法人「国立青少年教育振興機構」の調査でわかりました。

◆ 褒められ 叱られる経験が 大切

この研究は、子どもの頃（就学前～中学生）の体験や人間関係と、今の青少年に求められるへこたれない力などとの関係を調査し、これらをもつための体験活動の在り方を提案していくことなどを目的に行われ、全国の 20～60 歳代の男女 5,000 人から回答を得ました。

〈へこたれない力〉とは、社会を生き抜くために必要な資質・能力〈へこたれない力／意欲／コミュニケーション力／自己肯定感〉の一つで、

- ・何事も前向きに取り組むことができる力
- ・どんなに難しいことでも、努力をすれば自分の力でやり遂げられる力
- ・厳しく叱られてもくじけない力
- ・失敗してもあきらめずにもう一度挑戦することができる力

などが挙げられます。

調査では、「失敗してもあきらめずにもう一度挑戦する／厳しく叱られてもくじけない」などの質問結果から、回答者の現在の〈へこたれない力〉を「高い・中間・低い」の 3 段階に分けました。また、子ども時代に親や先生から「褒められた・厳しく叱られた」経験が多かったか、少なかったかで、〈へこたれない力〉との関係を比較しました。

その結果、次のような傾向が見られました。

- 子どもの頃、親や先生に褒められた経験が多い・厳しく叱られた経験が多い人ほど、へこたれない力は大人になっても強い
- 子どもの頃、近所の人に褒められた経験が多い・注意された経験が多い人ほど、へこたれない力は大人になっても強い

また、褒められた経験や厳しく叱られた経験がともに少ない人は、〈へこたれない力〉が最も弱かったそうです。

◆ 上手な褒め方 心に響く叱り方

先の機構では「子どもにきちんと向き合い、褒めるべきところは大いに褒め、悪いところはしっかり叱る姿勢が重要で、子どもへの無関心や放任は好ましくない」と分析しています。

子どもは誰でも人に認められたいという気持ちをもっています。特に、身近な人から認めてもらいたいのです。人から褒められ肯定されると、自分の存在が認められたと思ひ、安心感や自己肯定感が高まります。

子どもを上手に褒めるためには ①子どもと一緒に喜び共感する ②褒めることを見つけたら、その瞬間に具体的に褒める ③結果ではなく、努力や過程を褒める ④子どもの目を見て心から褒める などが大切です。また、心に響く叱り方としては ①時間をあけずにその場で叱る ②短くわかりやすい言葉で叱る ③なぜ悪いのかの理由と合わせて叱る ④人前では叱らない などがあげられます。

北浦和小の子どもたちには、家族や地域の方々、教職員の愛情や絆を基盤に、褒められ厳しく叱られる経験を積み重ねながら、〈へこたれない力〉も含めた、社会を生き抜くために必要な資質や能力をさらに高めていってくださることを願っています。